

第8回海技人材の確保のあり方に関する検討会（議事概要）

日 時： 令和7年6月26日(木) 10:00～11:05

場 所： 中央合同庁舎3号館 11階共用会議室

出席委員： 野川座長、河野座長代理、藏本委員、田口委員、田中委員、蔦井委員、土屋委員、
富永委員

野川忍委員を座長に、議事次第に沿って、事務局から資料の説明を行い、意見交換を行った。主な意見は以下のとおり。

【海技人材の確保のあり方に関する検討会とりまとめ案】

・とりまとめの内容をいかに着実に実施していくことが、この海技人材の確保に本当にかかっていると思う。予算措置を必要としないようなものや年度内に取り組めるものについては、直ちに組み組んでいただきたい。

・新たに5級海技士の人材確保、育成については、しっかり実践実行し、船員の成り手の数を増やしていただきたい。

・ハローワークと教育、職業紹介、学びの場の既存の仕組みをうまく連携させていって、多くの多様な船員としての人材の確保につながることを取り入れてもらいたい。

・とりまとめの今後の進捗状況の報告について賛同。とりまとめられた内容を確実に実施して、船員が確保育成されていく状況、また若者あるいは転職を機に船員を志す人が、安心して船員職業を選択できるようにしていただきたい。

・5級海技士養成の拡大策については、業界としては賛同。民間の教育機関では、一部反対する意見もあるため、調整しながら進めていただきたい。

・海運は日本の生命線であることを理解いただいた上で、船員政策に対する不断の検討をお願いしたい。将来、世界的に船員の奪い合いが起こると思うので、世界市場の中での船員政策を引き続き検討いただきたい。

・文科省で学習指導要領改訂の議論が行われており、通常スケジュールでいくと2026年にはとりまとめられると思うので、今年度中にはある程度、具体的にどうするのかという意見はまとめていく必要がある。次の改訂となると、10年後とかになってしまうので、検討チームのワーキングでも、そのスケジュールに沿った議論の進展、スピード感を

出して進めていく必要があると思う。

・新たな海技人材ニーズに関して、これから先、例えば洋上風力に必要な特殊船や海洋調査に必要な特殊な操船技術を備えた船員が必要になってくるのではないかと思う。特に、洋上風力や海洋開発に必要な技能を備えた船員は、国際的にも非常に高く評価され、国際競争力にもつながるため、日本人船員でそういった技能を持つ人を育てるということは、将来的な課題として必要になると思うので、いつか検討していただきたい。

以上